第3種郵便物認可

高江テント損壊

「中に人がいたら…」

目撃の山城さん　恐怖「狙われている」

超低空飛行の米軍ヘリによる被害を受けたテントの前で状況を説明する山城博治さん＝23日午後9時5分、東村高江

【東】米軍ヘリの風圧で倒され、折り重なる椅子やテーブル。地面に散らばる割れた茶わんのかけら。天井代わりのビニールシートはひもがちぎれ、だらりと垂れ下がっていた。ヘリパッド建設に反対する座り込みテントを「狙い撃ち」したかのような米軍ヘリの民間地上空での低空飛行。座り込みを続ける「ヘリパッドいらない」住民の会や支援者から「反対運動に対する威圧だ」と批判の声が上がった。

23日夜、沖縄平和運動センターの山城博治事務局長は、テント横に止めた車の中で寝ていた。午後7時45分ごろ、近づいてくるヘリの音に気付いた。「こんな時間にも演習するのか」。この日は昼からヘリが演習を繰り返していたが、この時は様子が違った。

いったん基地内に入ったヘリは戻り、上空約15㍍で止まった。次の瞬間、風圧で車の周りの枯れ葉がぐるぐると舞い始め、車はぐらぐらと揺れた。「狙われている」。恐怖を感じる山城さんの耳に、テントから「がちゃん、がちゃん」と食器が割れる音が聞こえてきた。

1分ほどしてヘリは去った。山城さんがテント内を確認すると中はめちゃくちゃに。道路には風圧で飛ばされた雑草の切れ端が散らばっていた。

山城さんは「テント内に人がいれば、けがをしていた。こんなものは訓練ではない。威圧するために狙い撃ちしたとしか思えない」と語気を強めた。

住民の会の森岡浩二さんは「こういう被害があるからヘリパッド建設に反対している。ヘリパッドが増えたら被害は増大する」と不安げな表情を浮かべた。